---
name: devils-advocate
description: 意思決定案を肯定・反対・中立の視点で検証し、決定前に解消すべき盲点を提示する。反対意見の検討依頼に使う。
metadata:
  version: "1.0.1-generic"

デビルズアドボケート

目的

意思決定や案の評価の前に、あえて「反対の立場」を強制生成し、論点を批判的に検証する。AI の迎合性（賛同しすぎるクセ）を打ち消し、決め切る前に盲点を洗い出すことを目的とする。肯定派・否定派・中立の裁定役の 3 役を 1 人で演じ分けて論戦させる。

いつ使うか／使わないか

使う

- 戦略・組織・制度・人事など「決め切りにくい論点」の意思決定前
- 自分の案や結論に自信があるとき（＝盲点が見えにくいとき）ほど効く
- 合宿・会議の準備段階で、想定反論を先回りして潰したいとき
- 入力パターン例：「反対意見も踏まえて検証したい」「この案、反対の立場からも見て」「賛成と反対の両方を出して」「この判断に穴がないか確認したい」「批判的に検証して」「デビルズアドボケートやって」「この決定、ツッコミどころある？」「別の視点からも考えたい」

使わない

- 軽い相談・単純な作業依頼・事実確認には**過剰適用しない**（重い論点に絞る）

起動方法

- 明示的な呼び出し：「デビルズアドボケート」「反対意見も踏まえて検証したい」「批判的に検証して」など
- **AI 側からの提案**：AI が「これは決め切りにくい論点だ」と判断した場合、このスキル

の使用を AI 側から提案する

入力

- 検証したい論点・案（必須）
- 前提・制約条件（任意）
- 論戦の往復回数（任意・デフォルト 3 往復）

手順

1. 論点の確認【必須・最初に実行】

検証したい論点・案を 1 つに絞って確認する。前提や制約条件があれば併せて確認する。論戦の往復回数はデフォルト 3 往復（指定があればそれに従う）。

- **往復回数の指定がない場合**：デフォルト 3 往復を採用する旨を宣言して進める（聞き直さない）
- **論点が複数含まれる場合**：分割したうえで「最も重い 1 つ」を提案し、どれから検証するか確認する（まとめて論戦すると反証が浅くなる）
- **案がなくテーマだけの場合**（例：「組織体制どう思う？」）：まず肯定派が推す具体案を 1 つ定式化してから論戦に入る（検証対象が定まらないまま論戦しない）

2. 肯定派の主張

論点を支持する立場として、最も筋の通った主張を組み立てる。

3. 否定派の反証

人格を完全に切り替え、否定派として**最低 3 つの反証・リスク・盲点**を挙げる。「とりあえずの反対」ではなく、本当に痛いところを突く。

「本当に痛い反証」の判定基準（次の 3 条件を満たすものを優先する）：

- (a) **急所性**：その反証が正しければ、案の目的または成立条件そのものが崩れる（枝葉の欠点ではない）
- (b) **未回答性**：提案者がまだ答えを持っていない見込みが高い（想定済み反論の再演

ではない）
- (c) **固有性**：一般論ではなく、本件の固有条件（数字・関係者・制約・タイミング）に根ざしている

反証の質のルール：

- 3 つの反証は**互いに異なる軸**から出す（実行可能性／前提の誤り／機会費用・代替案／ステークホルダー影響／時間軸・撤退可能性、などから 3 軸以上に散らす）
- 反論対象は肯定派の主張の**最も強い形**（スチールマン）とする。弱く歪めた要約（藁人形）に反論しない
- 表現の好みや些末な言い回しへの指摘は反証に数えない

4. 論戦【指定往復数】

肯定派と否定派が指定回数ぶん論戦する。各往復で論点を深掘りし、安易な折衷に逃げない。

「安易な折衷」の禁止を具体化したルール：

- 各往復で、否定派は肯定派の直前の再反論のうち**最も弱い前提を 1 つ特定して**更に問う（新しい反対を並べるだけの水掛け論にしない）
- 「両方に良さがある」「バランスを取って」「ケースバイケース」等の折衷句を論戦中に使わない
- どちらかが譲歩する場合は「**どの条件が満たされたら譲歩するか**」を明示する（空気での収束を禁止）

5. 中立裁定

中立の裁定役として、両者の論点を統合し、最終的な結論と理由を提示する。

- 結論は「**採用／条件付き採用／不採用／追加検証してから判断**」の 4 択から必ず 1 つ選ぶ（両論併記で終わらせない）。「条件付き採用」の場合は条件を、「追加検証」の場合は検証項目を具体的に列挙する
- 経営・組織・制度など会社の判断軸に関わる論点では、裁定の前に自組織の価値基準（後述「価値基準の参照」で設定した資料）を読み、価値基準との整合を裁定理由に含める（参照した旨を明記する）。設定がない場合はこの手順を飛ばし、一般的な妥当性で裁定する

6. 「決める前に潰すべき論点」リスト

最後に、意思決定の前に検証・確認しておくべき論点を箇条書きで列挙する。各論点は「**何を・どうやって確かめるか**」（確認先・データ・小さく試す方法）まで書く。裏取りのない事実・数値に依存する反証は、ここに⚠️要確認付きで送る。

出力フォーマット

チャットで以下の構成を出力する（ファイル保存・DB 登録はしない）：

1. 論点の確認（前提・制約・往復回数）
2. 肯定派の主張
3. 否定派の反証（最低 3 点）
4. 論戦（指定往復数）
5. 中立裁定の結論と理由
6. 決める前に潰すべき論点リスト

事前確認と出力前セルフチェック

事前確認（依頼文にあれば聞き直さない）：

1. 検証したい論点・案（必須。複数あれば手順 1 のルールで 1 つに絞る）
2. 前提・制約条件（任意。なければ「なし」として進める）
3. 往復回数（未指定ならデフォルト 3 往復を宣言して進める）

出力前セルフチェック（手順 6 の出力直前に確認する）：

- [ ] 反証が 3 つ以上あり、互いに異なる軸から出ている
- [ ] 各反証が判定基準(a)(b)(c)を満たす（「とりあえずの反対」が混ざっていない）
- [ ] 論戦が指定往復数ぶんあり、折衷句で収束していない
- [ ] 裁定が 4 択（採用／条件付き採用／不採用／追加検証）から結論を 1 つ選んでいる（両論併記逃げになっていない）
- [ ] 裏取りのない事実・数値の反証に⚠️要確認が付き、論点リストに送られている
- [ ] 論点リストの各項目が「何を・どうやって確かめるか」まで書かれている

完了報告：出力の末尾に「往復数／反証数／⚠️要確認の件数」を 1 行で添える。

価値基準の参照（任意設定）

手順 5 で裁定の物差しにする資料を、使う人が自分の環境に合わせて書き足す。設定しない場合、手順 5 は一般的な妥当性だけで裁定する。

ソース	パス／URL	取得方法	読むタイミング
（記入例）自社の理念・行動指針	（記入例）`docs/理念・行動指針.md`	Read	手順 5（経営・組織・制度に関わる論点の裁定前）

制約・ルール

- 軽い相談・単純な作業依頼・事実確認には**過剰適用しない**（重い論点に絞る）
- 反対のための反対をしない。あくまで意思決定の質を上げるための検証
- 出力はチャットで行う（ファイル保存・DB 登録はしない）
- チームで共有して使うことを想定し、誰が使っても再現できる粒度を保つ
- 反証・リスクとして挙げる事実・数値に裏取りがない場合は、断定せず「⚠️ 要確認」を付けて論点リスト側に送る

想定される失敗と対策

実運用で失敗が起きたら、この表に「事象→原因→対策」で追記して育てる。

想定される失敗	原因	対策
否定派が形だけで甘い（迎合の残存）	AI の賛同バイアス	反証の判定基準(a)(b)(c)＋互いに異なる軸 3 つ以上を必須にする
藁人形論法（弱い要約への反論）	肯定派主張の歪んだ再構成	スチールマン原則：最も強い形に反論する
論戦が折衷句で早期収束	対立を維持する心理的コストの回避	折衷句の使用禁止＋譲歩条件の明示ルール（手順 4）
裁定が両論併記で終わる	決め切りの回避	4 択（採用／条件付き採用／不採用／追加検証）から必ず 1 つ選ぶ（手順 5）
実在しない数字・事例で反証を補強	説得力を出すための創作	裏取りなしの事実・数値は断定せず⚠️ 要確認で論点リスト送り

| 軽い相談への過剰適用 | トリガー語の広さ |description のトリガーを文脈が特定できる語に絞る（「反論」「反証」「ツッコミ」「別の視点」などの単独語は他スキルと衝突しやすいので入れない）＋発動時に手順 1 の論点確認で誤発動を検知。「使わない」基準（重い論点に絞る）も維持し、迷ったら適用前にユーザーに確認 |

使い始める前の設定

このファイルは組織固有の参照先・固有名詞を外した汎用版。次の 2 点だけ自分の環境に合わせれば使える。

1. 「価値基準の参照」の表に、自組織の理念・行動指針を書いたファイルを 1 行足す（なければ記入例の行を削除して空のままでよい）
2. frontmatter の`description`に、自分が実際に使いそうな言い回しが入っているか確認する（トリガー語が合わないとスキルが発動しない）

置き場所：Claude Code のスキルとして使う場合は `.claude/skills/devils-advocate/SKILL.md` に置く。読み物・手順書として配る場合はそのまま渡してよい。